

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/4/30	2020/5/8	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	20,193.69	20,179.09	24,448.07	2018/10/2	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	28,538.44	24,345.72	24,331.32	29,568.57	2020/2/12	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	108.61	107.18	106.65	114.73	2017/11/6	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先々週・先週の振り返り

～欧米における経済活動の再開や国内における新型コロナウイルスの新規感染者数の鈍化を好感し、上昇～

先々週・先週(4月27日～5月8日)の日本株市場は、日経平均が+917.09円(+4.76%)、TOPIXが+36.99ポイント(+2.60%)となり欧米における経済活動の再開や国内における新型コロナウイルスの新規感染者数の鈍化を好感し、上昇しました。業種別(東証33業種)でみると、電気機器、ガラス・土石製品、金属製品、鉄鋼などの27業種が上昇する一方、保険業、電気・ガス業などの6業種が下落しました。

27日は、日銀が金融政策決定会合で社債買入額の倍増など追加緩和策を決定したことなどから、上昇しました。28日は、FOMC(米連邦公開市場委員会)を控え横ばい圏で推移しましたが、30日には①FOMCにおいてFRB(米連邦準備理事会)の緩和姿勢が確認されたこと、②新型コロナウイルスの治療薬に対する期待が高まったことなどから大きく上昇し、日経平均は約2ヵ月ぶりに2万円を回復しました。1日は、トランプ米大統領が新型コロナウイルスを巡り、中国が初期対応を誤った結果世界的に感染が拡大したとし、何らかの報復措置をとると発言したことで大きく下落しました。7日は、欧米で新規感染者数がピークアウトし経済活動の再開を好感する一方、国内連休中に発表された海外の経済指標が軒並み悪化したことが重しとなり小幅下落しましたが、8日には①国内でも新型コロナウイルスの新規感染者数が鈍化していること、②中国商務省が米中通商協議を巡り閣僚級の電話会談の実施を公表し、両国の関係悪化懸念が後退したことなどから、上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
5月12日	Tue	日本	景気先行CI指数	3月 91.7
			景気一致指数	3月 95.5
		中国	CPI(消費者物価指数)(前年比)	4月 +4.3%
			CPI(除食品・エネルギー/前年比)	4月 +2.1%
5月13日	Wed	日本	国際収支・経常収支	3月 +3兆1,688億円
			貿易収支	3月 +1兆3,666億円
			景気ウォッチャー調査現状	4月 14.2
		欧州	景気ウォッチャー調査先行き	4月 18.8
			ユーロ圏鉱工業生産(前月比)	4月 ▲0.1%
			米国	PPPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)
5月15日	Fri	中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	4月 ▲8.4%
			小売売上高(除自動車)(前月比)	4月 ▲4.2%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	3月 ▲78.2
			鉱工業生産(前月比)	4月 ▲5.4%
		ミシガン大学消費者信頼感指数	3月 71.8	

決算発表予定 他	
日本	決算発表 : 友楽業、楽天、武田薬品工業、浜松トキカズ
	5/11 ヴァンパ、アブリスタ、三菱重工、三菱電機、植野製薬、大塚かす、日清食品HD、アサヒグループHD 5/12 リソナHD、キョーマン、キリンHD、クボタ、システム、セコム、ダイキン工業、タカラトヨタ自動車、トヨタ自動車、三井不動産、国際石油開発帝石、NEC、日本マクドナルドHD、旭化成、ホンダ、ALSOK、資生堂、関西電力 5/13 エーザイ、ソニー、セキエー、三菱が加HD、大成建設、大日本住友
海外	決算発表 : 5/12 アリアンツ、サウジアラムコ、5/13 シスコ、コメルツ銀行、テンセント・ホールディングス、5/14 アフラット・マテリアルズ、ベトワラス

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～新型コロナウイルス感染症を巡る情勢に左右されつつ、企業業績の先行き不透明感から上値の重い展開～

今週の日本株市場は、新型コロナウイルス感染症を巡る情勢に左右されつつ、企業業績の先行き不透明感から上値の重い展開が続くと予想しています。①欧米において経済活動が徐々に再開されていること、②国内での新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあること、③「特定警戒都道府県」を除く地域での経済活動の再開が期待されることなどが株価上昇要因に働くものの、①経済活動の再開は段階的なものとなり景気の急回復は見込みが難しいこと、②経済活動再開による感染再拡大の可能性が払拭されていないこと、③係る環境下で、本格化する国内企業の決算において慎重な業績見通しが続くことと見込まれること、④米中関係の悪化が懸念されていることなどから、上値の重い展開が続くと見込んでいます。

その他の注目材料として、日本では13日の景気ウォッチャー調査、米国では12日のCPI、15日の小売売上高、ニューヨーク連銀製造業景気指数、鉱工業生産、ミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では13日のユーロ圏鉱工業生産、中国では12日のCPI、15日の鉱工業生産などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。が)、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。